



# ピースデポ

## 平和資料協同組合

# 会報

No.9

2001.10.15

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 梅林宏道 / 住所: 〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1日吉グリーンネ102  
 TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org  
 郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ  
 銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

## 3人スタッフ体制 になりました

ピースデポでは、2001年度から3つの中期目標として、①フルタイム3人体制、②専務理事の確保、③ワン・フロアの広い事務所、を掲げていました。この中で、事務所の現状をかんがみて、フルタイム3人体制の実現を第一にしようと考えました。5月より「研究・事務職スタッフ」の募集を開始し、7月に選考を行った結果、中村桂子さんの採用が決まりました。中村さんは、8月21日より勤務を開始しました。スタッフは、川崎哲、秋山祐子、中村桂子の3人となりました。これによって、ピースデポがカバーできる調査領域が広がり、事務所運営もより円滑になると期待しています。皆様の一層のご支援をよろしくお願いいたします。

また、新規スタッフ募集にあたっては、20人の方々からお便りがあり、そのうち16人から正式の応募がありました。応募のあった16人の方の書類選考を行って5人の方を選び、3人の面接委員が面接しました。私たちとしては苦しい選択を強いられました。今回は人員枠に1名の余裕がなく、当面の必要性に絞った考え方をさせていただきました。予想以上にたくさんの方々から応募いただいたことは、正直言って、嬉しい悲鳴と言うべきでしょうが、どなたを採用するかについてとても苦しみました。それぞれの方々で得がたい特色があって、ピースデポの将来にとってどなたもが、必要な、しかもそれぞれが違う個性をもっておられたからです。

私たちに財力があれば、一人と言わずせめて二人の採用をしたい思いを強く致しました。多くの個性溢れる方々にピースデポへの関心を寄せていただいたことは、日本で初めての平和問題NPOである私たちにとっては大きな励みでした。ありがとうございました。

### — はじめまして —

初めまして。ピースデポ新スタッフの中村です。このオフィスで仕事をさせて頂くようになってからはや1ヶ月、毎日が新しいチャレンジで、忙しいながらもやりがいのある仕事と、温かいスタッフに恵まれて、とても充実した毎日を送っています。

現在、研究職としては日米安全保障問題や在日米軍基地問題等の研究分野を担当し、また事務職としては会計を主

に担当しております。先号のモニターからは、梅林さんと共著で横須賀空母母港史連載を書かせていただいています。読者の方々に読んでいただく信頼性のある文章を書く、ということの難しさを身にしみて感じています。しかし同時に、このような実践的な勉強の機会を最大限に生かせるよう、楽しみながら頑張っていきたいと思っています。

私は大学在学中に渡米し、今年の5月に大学院を卒業して帰国するまでの約8年間を、アメリカ西海岸で過ごしました。大学院では国際政策研究科でジェンダー開発学とアジア地域研究を専攻しました。また、民間非営利セクターの発展と社会における役割、といったことに強い興味を持っており、在学中は長期休暇を利用してNGOでのインターンシップやボランティアを経験してきました。



中村桂子さん

ご存知のように、アメリカでは非営利団体の活動の歴史が古く、社会に根付いている感があります。精力的な市民の活動を目の当たりにし、今後無限の発展の可能性を持つ日本のNGOで働いてみたいと希望するようになりました。いろいろな規模やスタイルのNGOがある中で、一次情報に基づく正確な情報を提供することにより市民活動をサポートするというピースデポの姿勢に深く共感し、その一翼を担いたいと思い、応募しました。軍縮・平和問題に関しては、まだまだこれから勉強しなければならない問題が山積みですが、少しずつ知識を蓄積して、きちんとした結果を出せるようになりたいと思っています。御指導、御教授の程、よろしくお願いいたします。

## 橋爪文さん出版記念会

去る9月8日、鎌倉芸術館で橋爪文さんの『少女・14歳の原爆体験記』出版記念会が開かれ、私は、50年来の友人を誘って共に橋爪さんとは同年齢であることから興味をもって参加しました。この会は、発起人に梅林宏道ピースデポ代表、

「鎌倉被爆者の会」会長の平井千三氏、それに世話人として橋爪さんの鎌倉時代の友人たちが中心になって開催されたものです。



9月8日鎌倉芸術館にて。

この本は高文研からピースデポの本として出版されたもので、会員の皆さんには、もうすでにお読みいただいた方もいらっしゃると思いますが、半世紀前の被爆体験とそれからの彼女の生き方が語られています。特に60歳を過ぎてからスコットランドのエディンバラへ語学留学をされ、詩人でもある橋爪さんは、世界のあちこちの国ぐにを訪れ、詩の朗読や原爆体験を語り、その活動ぶりはめをみはるもの



8月27日、東京。左から梅林宏道、橋爪文、K・デュースの各氏。

があります。ピースデポとの出会いも梅林さんの挨拶の中で伺ったのですが、ニュージーランドのケイト・デュース、ロバート・グリーン夫妻からの紹介で「原爆体験記」の生原稿を梅林さんが読まれて、たいへん感銘を受け、是非これを本にしてはと、高文研にその原稿を渡され、出版の運びとなったそうです。

このパーティでは、橋爪さんと関わりのある方々のスピーチが次々にあり、また、お仲間たちが、橋爪さんの詩の朗読をされたり、作詩されたものに曲をつけて独唱されたりと、あまり広くない会場には、女性の姿が多く目立ち華やいた雰囲気でした。終りに橋爪さんから出席者へのお礼と、これからも原爆の生き残りの使命として、ご自分の体験を伝えつづけていきたいと挨拶されました。そして可愛い小さなお孫さんから花束が渡され、そのあと友人、関係者からの花束を受けられとても嬉しそうでした。私も、戦中戦後の体験を持つものとして、文さんの生きざまには圧倒されながら、自分のこれからの考えさせられました。それにしても文さんは、あの細身の体でどこからパイタリティーが生まれてくるのか、ただただ凄いなあと思うばかりでした。

(津留佐和子)

## 平和連帯都市市長会議 NGOブースに出展

高名晶子(諫早ポスト)

平和連帯都市市長会議の後半は、8月8日・9日に長崎市で開催された。会場の長崎ブリックホールの国際会議場のロビーに、ピースデポはブースを開設したが、ブースではいっさいの販売行為は禁止、出版物を並べ集会用の封筒に購入者がお金をいれる封筒を置くことも禁止された。紆余曲折を経て、会場への通路の端の方に机を置き出版物を並べた。会議の出席者は通りすぎるだけ、これは当然であった。

出席者の多くは外国人であり、日本人の出席者は少数であった。知人が見るに見かねてロバート・グリーン氏の著書2冊と「核軍縮と非核自治体」の計3冊を買ってくれたが依然として立ち止まる人もない。

人目を引く何かが必要だと思い、イスラエルのアシュケロン市長にアピールするために用意していた「FREE VANUNU」(バヌ又はイスラエルの核問題告発者、現在投獄中)のプラカードを机にぶら下げた。効果はたちまち現れ外国からの出席者はバヌ又と言って握手を求め、立ち止まって本を手にとり見てくれた。しかしながら本は日本語、グリーン氏の原著があれば売れたかもしれないと思い残念であった。

米国ニューヘブンの平和委員会のアルフレッド・マダーさんは必ず立ち止まりバヌ又を支えることや、本を手にとり英語版はないかと言ったりした。日本人の参加者は本屋で買える本をはるばる長崎から持ち帰ることもないとの意向のようであった。店頭にないピースデポの本、「核軍縮と非核自治体」が売れ筋であったが売れたのはやっと10冊であった。

外国人が多数の会議に日本語の本を売ることはもともと無理であったと思う。運送料に見合う売上はできなかったのではないが。

2日間の販売の中でマダーさんのように本気で核廃絶を考えて出席している人に会えたことは幸いであった。「FREE VANUNU, NO STAR WARS」と言って握手してマダーさんと別れ、販売は終わった。

### 編集後記

表紙の「スタッフ3人」とは給料をもらっているスタッフのことで、アンペイド・プレジデントの梅林さんは毎日事務所にいますし、また理事の津留さんもほとんど毎日無給で来ていただいています。発送ボランティアの皆さんも多数。感謝。(川崎)

毎年、何かが起こります。仕事は減ることがないので、会員のみなさまのおかげでまさに倒産はありえないかもしれませんが、これも、喜ぶべきことなのか…。しかし、今年も多くの方々にご協力いただきました。特に元スタッフの笠本さんありがとうございました。(秋山)

# 核軍縮に「成績表」

昨年春の核不拡散条約(NPT) 5段階で評価する「成績表」を始めたことになった。

## NGOが政府評価

担当するのは、横浜市にあるNGO「ピースデポ」(梅林英道代表)。13項目には、核保有国による核軍縮の「明確な約束」などの強化といった内容がある。それぞれについて、例えば「核兵器依存を完全廃止する実行計画をつくる」「米国のミサイル防衛を縮小する」など、日本政府が取るべき具体的な課題を設ける。

●2001年7月8日「朝日新聞」。NPT成績表。

# 心の奥底 原爆体験



原爆体験記を書いた橋爪文さん

## 未来へ「反核の種時き」

大和在住 詩人・橋爪文さん 本に

14歳のときに広島で被爆した少女が、70歳になったこの夏、1冊の本を出した。『少女・十四歳の原爆体験記』(高文研刊)。「思い出したくない」と、心の奥にしまい込んでおいた被爆体験。だが、60歳を過ぎて海外へ短期留学をしたのをきっかけに、出会った人々に促されるようにして語り始めた。

て、灰をかぶったようになっている人、真つ黒く爆けた人、飛び出した眼球を押し込んでいる人……(略)



少女・十四歳の原爆体験記 橋爪文著 出版された原爆体験記

## 事務所の動き

- 4月4日 多摩川でボランティアさんたちとお花見。
- 4月15日 地域ポストによる「地域だより」春号発行。
- 6月8日 長崎市平和推進室、永田さん来所。
- 7月7日 カンダパンセにてピースデポ公開セミナー「NPT13項目を検証する」を開催。約60名ほど参加。
- 7月14-15日 第7回理事会、合宿をかねて箱根・仙石原にて。
- 7月29-30日 新規職員応募者面接。
- 8月20日 地域ポストによる「地域だより」夏号発行。
- 8月21日 新規スタッフ中村桂子さん勤務開始。
- 9月26日 長崎地球市民集会事務局広瀬さん、11月の打ち合わせで来所。

- 定例発送作業(月2回事務所にて2~3名のボランティアさんと)。
- 原子力空母母港化調査(ネパの会と月1回のペース、事務所)。
- 新聞記者来所取材(2001年4月5日~9月26日まで)4社、13件 うち核問題5件、米軍・安保・沖縄4件、テロ事件2件、情報公開法1件。
- DS研究会(ほぼ月1回のペース、事務所)。

## 国際的活動

- 4月29-30日 ニューヨーク、国連本部におけるMPI会議に梅林参加。

- 5月4-8日 英、リーズの宇宙問題会議に海外派遣事業として会員の黒崎輝さんを派遣。
- 5月7-8日 英でのアポリジョン2000の会議に川崎が参加。
- 7月27日 広島平和研究所、国際ワークショップに梅林参加。
- 8月1-2日 原水禁国際会議、IALANA国際会議に梅林参加、発題(東京)。
- 8月4日 IALANA広島会議で梅林が発題。
- 8月5日 原水禁公開討論会に梅林パネリスト参加(広島)。
- 8月7日-9日 第5回世界平和連帯都市市長会議(長崎で開催)に梅林パネリスト参加。
- 8月27日 MPI代表団としてケイト・デュースとともに外務省訪問。

## こんな所にも登場

- 4月21日 筑紫原爆被害者の会発行の『結成25周年記念誌-語り継ぐ』にモニターの世界の核弾頭図が使用
- 4月30日 NHK第1ラジオ「朝一番」で梅林のインタビューが放送。
- 6月2日 川崎市立南菅中学校の平和教室で川崎が授業を行な。
- 8月7日-9日 第5回世界平和連帯都市市長会議NGOブースに展示。
- 9月8日 橋爪文さん「少女・14歳の原爆体験記」出版記念会(鎌倉芸術館)で、梅林が挨拶。
- 9月21日 TBS「ニュースの森」に米国テロ事件で梅林がコメント。

